

より速く、より快適に作業するために!

ソフトの最新の機能を駆使して、魅せる作品を創るのも醍醐味だが、我々デザイナー稼業は結構日常業務に追われており、オリジナルの作品創りの前に、山と積まれた仕事をこなすことのほうが先決という御同輩も多いのではないだろうか。本誌は、魅せる作品創りに長けた達人が執筆することが多いようだが、私のFreeHand Tipsは、多くのデザイナー氏が日に何百回何千回とマウスクリックするであろう日常の業務を、『より速く、より快適に』というコンセプトでまとめたものである。

グレーTIFF活用Tips

Illustratorも7JからTiff画像が扱えるようになったが、FreeHandのTiff画像の扱いは年季が入っている。私がDTPによく利用するのはグレーTiffで、FreeHand側で着色して使用する。メリットは色味や階調をいつでも即座に変更できること、ファイル容量が極めて小さくてすむことだ。同じ事をCMYK-EPSファイルで置き換えようとするれば、時間手間も、ファイル容量も数倍から数十倍かかることになる。圧倒的な節約が可能。フィルム出力にも全く問題はない。



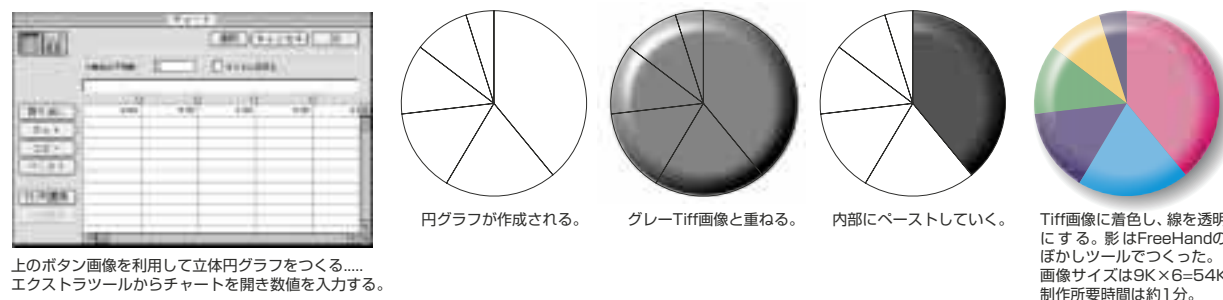
グレーTiff容量は9K
グレーTiff 10個の画像をFreeHand上で着色した例。画像は円の内部にペーストして切り抜いている。グレーTiffの容量はわずか9K。CMYK-EPSに変換すれば、その容量は181K (20倍)にもなり、さらに一ファイルづつPhotoshop側で色変更しなければならない。

■自然なドロップシャドウも簡単に

MdN MdN MdN MdN MdN

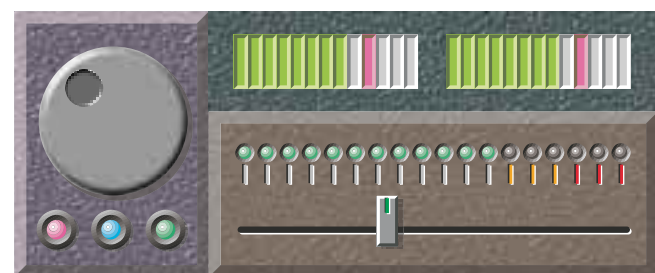
ロゴに影をつける...
 ロゴをラスターライズし、Option+ダブルクリックでPhotoshopを起動。画像をぼかし、(影の濃い部分は黒でよい)モードをグレースケールに変更し保存する。画像を重ね順で下に送り、影の位置に置く。
 影の画像に80%ブラックを適用すれば自然な影に.....
 別のカラーを適用すれば色付の影に.....
 重ね方を変えれば発光しているような効果も。
 ここからの作業時間は、ほんの1~2秒のことです。EPS画像ではこうはいかない!

■応用編



上のボタン画像を利用して立体円グラフをつくる.....
 エクストラツールからチャートを開き数値を入力する。

円グラフが作成される。
 グレーTiff画像と重ねる。
 内部にペーストしていく。
 Tiff画像に着色し、線を透明にする。影はFreeHandのぼかしツールでつくった。画像サイズは9K×6=54K 制作所要時間は約1分。



ハンマートーン塗装の雰囲気を出すために、テキストを粗したグレーTiff画像を使用。エッジの部分はレンズ塗りを使用して立体感を出している。ジョグダイヤルは上記のボタン画像をグレーのまま使用。制作時間は約20分



FreeHandのリンクコントロールパレット。画像ファイルが一元管理でき、埋込・変更・抽出が自在である。左のリンク状況はこのページの画像リンク状況。全てグレースケールであることがわかる。



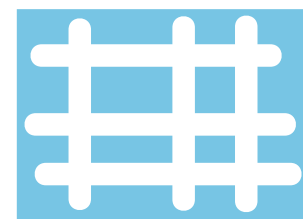
石目調に見える部分は、罫半紙をスキャナで取り込んだもの。

グレーTiffで取り込んだ画像をストックしておく、着色したり、階調を変化させたりと、自在に活用がきく。また、グレーファイル自体に変更を加えるのではないため、一つのファイルに複数リンクを張り、別々の色を付けることが出来、割付ファイル数を大幅に減らすことが出来る。画像ファイルをFreeHandドキュメントに埋め込むことも可能である。

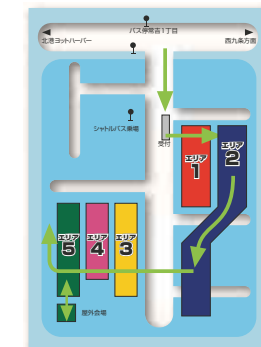
ナイフで描こう! Tips



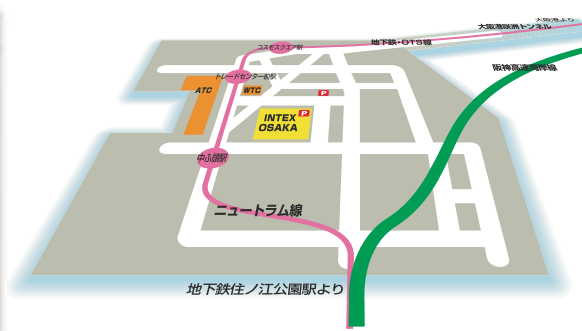
ナイフツールをダブルクリックしてパネルを出し、「パスをクローズ」をチェックし、切り出しの幅を与える。



選択した面上をoption+shiftを押しながらナイフツールで切れば、上のような交差点が数秒で描ける。optionは直線切り、shiftは角度制限。切端が不揃いであっても、整列ツールで揃えられ、道の変更も自在なため、素早く描ける。切端を円ではなく角にするにはインスペクタでポイント属性を変更すればよい。



道は複合パスになっているため、下に影などをおけば、通して見ることが出来る。



エクストラツールから3D回転を選び、パスをつけるだけで、ナイフで彫った地図とは思えない出来! 制作時間約5分(文字入力別)

FreeHandのナイフツールは切るだけでなく、描画にも使えるというTips。私は地図の仕事が入ってくるとニヤッとしてしまう。ナイフが使えるから。こと地図作りにかけて、これほど描きやすい道具は他に見当たらない。面に対して彫刻刀で道を彫っていく感覚。これはやれば実感できるTipsだ。

表組 Tips

表組フォーマット用セル

標準のテキストボックスではなく、属性を解除した四角形の「パス内に結合」したテキストボックスを一つのセルとして、エクセルの表のように(右参照)作表する。各セルは文字の量に応じていつでも縦方向・横方向に隣接するテキストボックスごとまとめて拡大縮小できるため、細かいことを気にせず作表する事が出来る。

表組フォーマット表組フォー

文字が溢れたら右下に信号が出るので、隣接するボックスごとまとめて縦または横方向にボックスを拡張していけばよい。

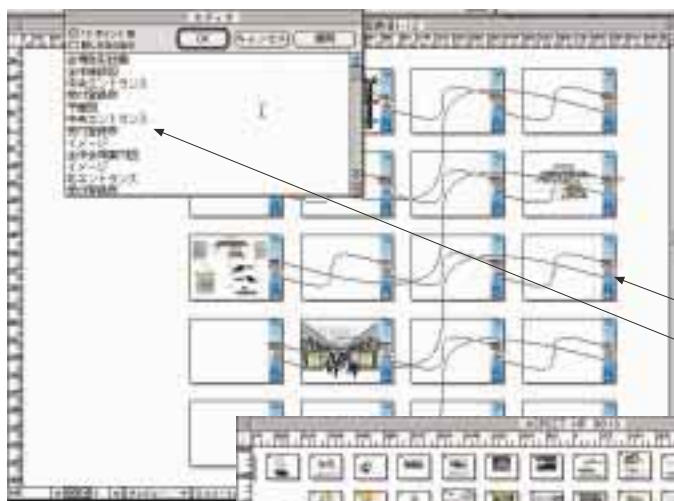
表組を正確に組むにはガイドに吸着・ポイントに吸着を活用する。文字、およびテキストボックスは別々に色指定が出来る。テキストボックスのサイズを変えるには、ドラッグして縦列又は横列の移動点のポイントを全て選択し、垂直又は水平に移動させる。

罫線ではなく塗りの間隔を開けた表組も同様の手法で作成可能。

表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット
表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット
表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット
表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット
表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット
表組フォーマット	表組	表組フォーマット	表組	表組	表組フォーマット

表組フォー	表組フォー	表組フォーマット	表組フォー	表組フォーマット
表組フォー	表組フォー	表組フォーマット	表組フォー	表組フォーマット

マルチページTips



FreeHandの機能面での大きな特長はマルチページ可能なドローソフトという事である。単独ドキュメントのIllustratorや複数ページ用のレイアウトソフトとも違うFreeHandマルチページのTipsを取り上げてみた。

例えば、企画書を作る場合、ページ建てやタイトルが頻繁に変更になることが予想されるなら、各ページタイトルとノンブルをそれぞれページに渡ってあらかじめリンクさせておき、それらの文字入力はテキストエディタで一元管理する。こうしておけば、20~30ページというページ数の企画書でも、ページタイトルの入れ替えや削除、追加、変更が何の苦もなく一瞬で出来る。もし単独ドキュメントのIllustratorで作っていたなら、ページの数だけファイルを開き、一つずつ修正していかなければならないだろう。また、リンクしているテキストブロックはページに渡って一括選択できるため、一括移動や一括削除といったことも簡単に出来る。

ページに渡ってテキストがリンクしている状況。
 テキストエディタを使えば、全ページのテキスト内容を一元管理できる。

FreeHandは数百ページに渡るドキュメントまで作成可能だ。マルチページ機能を利用してホームページなどを作れば、単独ドキュメントでは不可能と思われるような複雑なリンクも簡単に維持・更新できる。ちなみに左のドキュメントは弊社のホームページのものだが、予備ページを含め250ページ構成となっている。FreeHandのマルチページはどの部分からでも一覧できるため、視覚的にページ構成を整理しやすく、列単位や行単位で構成を分けたり、予備ページをあらかじめ用意しておくなどの工夫で作業効率上がる。私は、Directorのコンテンツ作成の際にもFreeHandのマルチページ機能を活用し、全体構成から部分デザインまで、ほぼFreeHandで仕上げてから一気にムービーにまとめあげる手法をとっている。